



## 年頭所感

一般社団法人 部分隔離協会  
第1代部分隔離協会代表理事

矢野 進 (株環境エンジニアリング・リサーチ社長)

新年明けましておめでとうございます。

昨年(平成二十一年)六月に一般社団法人 部分隔離協会が設立されました。あっという間の一年でしたが皆様には大変お世話になりました。協会として、いたらない点多々あったかと存じますが皆様の温かい励ましやご協力で無事新年を迎えることができましたこと、この場をお借り改めて感謝申し上げます。

また、協会は一致協力し協会員皆様のお役に立てるよう日々精進してまいります、どうぞ宜しくお願い申し上げます。本年もご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

振り返りますと、めまぐるしい激動の年でした。安穩として過ごしていた日本の社会が極めて危機的な状況にあることに気付かされ、意識の変革と大きな課題が突きつけられました。社会システムそのものを組み替える事を国民は選挙によって選択し、新しい政権の「エンクリートから人へ」というスローガンは、関係者にとって大きな衝撃を与えました。しかしこのことは、冷静に考えれば、新たな時代状況に対応したビジョンの再構築という避けて通れない課題を考える絶好の機会でもあるのです。

私は6月の代表就任の所信で、将来の疾病リスクゼロへの取組み」ということを述べました。部分隔離工法は現代社会において工法という狭義な視野より先ほど広い可能性を社会に対して有しているものであり、環境と安全の概念をより広くとらえることに問題提起したのです。激変する社会のなかで「社会に寄与する環境と安全」とは、いま形骸化した既成の安全性を越えた取組みが求められていると考えます。

改めて申すまでもなく、調査委員会、汚染環境等調査部会では現状の汚染域の調査など様々な活動を繰り広げており(財)労働科学研究所、木村名誉研究員(医博)様より呼吸用保護具等について学術のご意見を承り汚染域での実態調査を進めております。今後は科学的、現実的な安全とその仕組みを確立していきたいと考えております。

### 部分隔離協会の主旨

中皮腫・じん肺はアスベスト(石綿)の吸引から約30~40年たって発症する、潜伏期間の長い疾病として広く認知されております。クボタショックを発端にアスベスト問題への社会的関心が高まり、法整備以降は沈静化しつつあり、近年は除染作業の従事者への高濃度ばく露の問題が提起されはじめ、徐々にその実態調査が進んできている。

一般社団法人 部分隔離協会(以下、協会)は部分的あるいは局所的に汚染域を隔離して洗浄・除去する部分隔離工法の普及を通して「将来の疾病リスクゼロへの取組み」を進めており、部分隔離製品の供給企業は日米で2社と認知度も低く、製品の性能を十分発揮できる従事者の育成が必要と考え東西に研修センターを設けている。部分隔離は経済効率の優れた工法だが安全性にも優れており、この工法の普及が除染従事者の疾病抑制へつなげると考えている。

一般社団法人 部分隔離協会

〒135-0042 東京都江東区木場6-4-13 タテノビル4階

<http://bubunkakuri.com/>

TEL 03-5634-3990 FAX 03-5634-1466

事務局 宮原 秋山

東日本研修センター

〒277-0941 千葉県柏市高柳671(柏機材センター)

Tel 03-3262-9185 常盤工業(株) 麦田 秋田

西日本研修センター

〒577-8588 大阪府東大阪市金物町1番1号(金物団地) Tel 06-6723-2638

井上定(株) 石上 寺田